E-mail naga-30-naga@hotmail.co.jp

ホームページはこちら

2024年8月30日No536 JR 東日本労働組合 長野地方本部

発行者: 臼井幸一

編集:情宣部

JR 東日本労働組合 長野地方本部 第13回定期大会

縮成10周年 未来に向かって たたかう方針を決定!!

8月28日(水)長野市「JA 長野県ビル」において、長野地本「第13回定期大会」を開催しました。台風10号の影響で開催できるか判断に苦しむ状況でありましたが、進路が変わり影響ないと判断できたため、通常通り開催することができました。



臼井委員長からは「台風接近に伴い、まず考えたのは『安全』、バタバタとなってしまった数日についてはご迷惑をお掛けしたが、結果論ではなく『その時その時判断して実行する』その判断ができる組織力があったということが証明されたと思っている」「2024春闘『大きな勝利』であり、みんなで確認したい。分会・支部が自ら考え運動をつくり出してきたことは大きな成果である」「夏季手当同時議論にこだわる会社の本当のねらいを明らかにし、今後のたたかいにつなげて

いく」「結成10周年、2013年12月21日にここ JA ビルで結成大会を行った。コロナ禍で形式的な会議になってしまう時もあったが、このように顔をつき合わせて話をし、議論するということが大事であると再確認できた10年でもあった」「未来を見据えた運動を共につくり出していきましょう」と挨拶がありました。



来賓の本部嶋田副委員長からは「7月29日に横浜で組織拡大があった。拡大があった一地方のことと切り縮めず、全組合員でこの成果を確認していきたい」「本部定期大会において、2024年度年末手当の要求実現に向けてたたかいがスタートを切った。業績は7月31日発表の『第1四半期決算』において、営業利益は対前年約157%、運輸収入は対前年106.9%となり、単体・連結ともに『増収・増益』となっている。変革2027のスピードアップにより兼務や遠隔地への

転勤、みどりの窓口の長蛇の列のお客さま対応などの努力を重ね、私たちがこの業績を生み出してきた。労働側の団結を更に高め、要求実現に向けてたたかいをつくり出していく」「長野地本の飛躍を勝ち取ってきた運動の成果を今定期大会で確認し、更なる東日本ユニオンの飛躍、組織拡大の実現を目指して共に頑張っていきましょう」と挨拶がありました。



松本地区分会 深石代議員



総車分会 小林代議員



松本地区分会 武田代議員



長野地区分会 西沢代議員



長野総合運輸区分会 馬場代議員



佐久分会 小島代議員

発言していただいた代議員の皆さん

質疑では6名の代議員から「結成10年を振り返って感じること」「労働組合の必要性をどう広げていくのか」「長野駅での新幹線乗り換え時分について」「みどりの窓口問題」「2024春闘の取り組み、夏季手当の同時議論について」「ダイヤ改正後の勤務の問題」「レク活動を通じた組織強化の取り組み」など様々な発言がありました。



小林書記長の集約答弁では「6名の代議員から発言があった。出された業務課題については各機関と連携して申し入れを行い、問題解決に向けて取り組んでいく」「2024春闘は『統一行動』を全ての職場から展開してきた。地本として、組合員が集い、春闘について何でも話せる場をつくるために『春闘座談会』を開催してきた。今後も組合員が集う場を地本としてつくっていく」「昨年長野地本で2名の

仲間が東日本ユニオンの旗の下に結集してくれた。職場において運動をつくってきた結果が2名の加入につながった。更に職場から東日本ユニオンの運動を推し進めていくことを全体で確認したいと思う」「これから先を見据えた時、組織拡大はもちろんのこと、長野地本の強化ということを考えると『担い手』をつくっていくことが急務な課題である」「一人一人がこれからの東日本ユニオンをどう強化・発展させていくのかということを考えていかなければならない」「みんなで議論して運動をつくり出していく以外に強化も拡大もない。この10年を振り返り、明るい未来をつくり出すために、全組合員で取り組みを推し進めていきましょう」と答弁がありました。



議長の冨田さん大変お疲れ様でした。

2024年度長野地本執行体制

			11-11-12-20
執行委員長	臼井 幸一	組織担当部長	戸谷 正和
執行副委員長	池田 守	業務部長	山本 貴也
執行副委員長	青木 和隆	業務担当部長	三澤 明男
書記長	小林 正樹	会計監査員	間島 厚
総務部長	駒込 宏彰	会計監査員	中澤 琢
財政部長	滝沢 義亜	会計監査員	西沢 智史
組織部長	小倉 勝巳		

組合員一丸となって未来を切り開くたたかいをつくりだそう!!